

UISUWASHITA
UNIVERSITY



別冊

国立大学法人
宇都宮大学
職員募集案内 2021

Contents

- 管理職インタビュー

- 先輩職員インタビュー

広報室主任

総務課長補佐

財務課係員

学生支援課主任

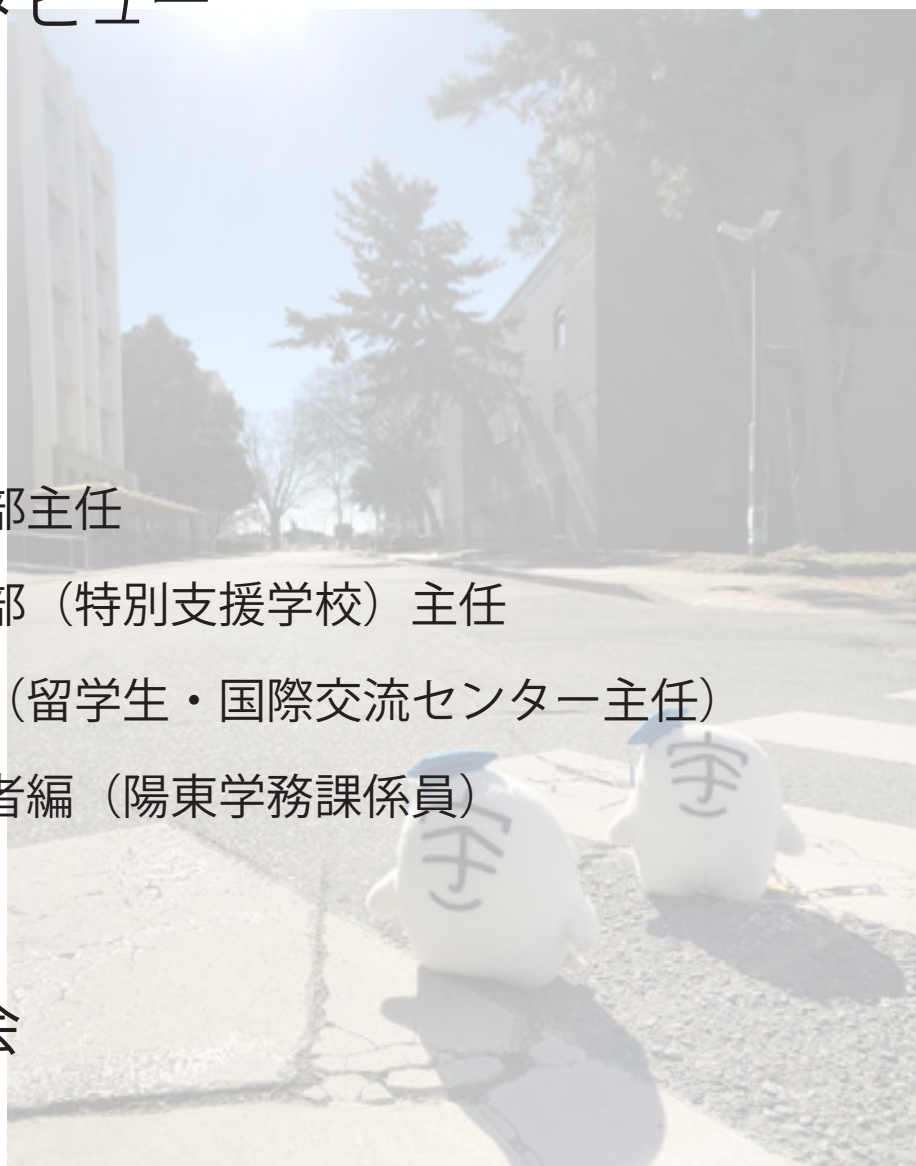
峰キャンパス事務部主任

峰キャンパス事務部（特別支援学校）主任

外部機関出向者編（留学生・国際交流センター主任）

自己啓発研修受講者編（陽東学務課係員）

- 若手職員座談会





管理職インタビュー

総務部長・学務部長
広報室長・地域創生推進支援室長

Q 宇都宮大学の魅力を教えてください。

宇都宮大学は、学生約 5 千人、教職員約 600 人の比較的小さな大学です。

顔が見える距離感で小回りが利くコンパクトな大学の強みを活かし、学生と教職員がコミュニケーションを取りやすく、学生に寄り添った手厚いサポートができるのが、強みや特徴であり、魅力であると言えます。

栃木県唯一の国立大学法人であり、地域の教育研究の拠点として 5 学部を有する宇都宮大学は、有為な人材を社会に送り出すという役割があります。

また、所在する宇都宮市は、人口 50 万人の中核都市ですが、近郊には恵まれた自然とともにおいしい食べ物も豊富にあり、都会との距離感もよく、働きやすい土地柄です。

Q 業務遂行で意識している点を教えてください。

国立大学法人である宇都宮大学は、公的支援により支えられているという特性から、大学に対する様々なステークホルダー（高校生を含む学生、保護者、地域社会、行政機関、経済界など）が存在することを意識した行動が必要であると考えています。

職員は日々、学内はもとより様々な機関や団体など多くの関係者との間でのやりとりが行われています。例えば、他大学、県・市などの自治体関係者、企業、金融機関、マスコミ、弁護士、小中高校などです。

こうした多様な分野の方々との関係性を重要視して、大学が社会的に果たすべき役割について広くご意見をいただきながら、地域貢献への使命感を持ち、共

創する社会とのつながりを意識することで、仕事にもやりがいを感じています。

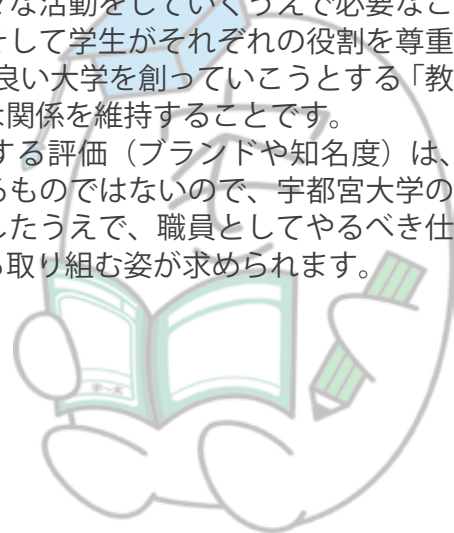
とりわけ、学生ファーストの視点から、日々の業務に取り組むうえでは、「この仕事は学生にとって意義があるのか」、「学生を最大限サポートするために」といったことを念頭に置いています。

その仕事が多忙時には手間や時間がかかる場合には、それが学生にとって必要なものであれば労を惜しまないし、反対に費やす時間に対して非効率であれば、どうやって改善するかを考えます。

Q 宇都宮大学の職員としてあるべき姿を教えてください。

大学は、学生、教員、そして職員で構成されています。大学において様々な活動をしていくうえで必要なことは、教員と職員そして学生がそれぞれの役割を尊重しながら、共により良い大学を創っていくとする「教職学協働」の最適な関係を維持することです。

大学の社会に対する評価（ブランドや知名度）は、一朝一夕でなし得るものではないので、宇都宮大学の理念、目的を認識したうえで、職員としてやるべき仕事を常に考えながら取り組む姿が求められます。



先輩職員インタビュー

広報室主任

Q 現在の仕事内容・やりがいを教えてください。

ホームページや SNS の運用、広報誌の作成、取材への対応などを通して、様々な方に宇都宮大学の活動内容を理解してもらうことが広報室の仕事です。教育、研究、地域・社会貢献などの様々な活動のうち、何をどうやって伝えれば、それが「大学の魅力」として受け取ってもらえるのか考え、発信しています。

学生が真摯に授業や課外活動に励む姿や、教員の最先端の研究、地域との取組など、宇大にはたくさんの魅力があります。取材という形で様々な方と出会い、話を聞くことのできる広報の仕事は、大学の良さを身近に感じられる点でとても魅力的であり、誇らしさを感じることもあります。ただ、自分の感じた大学の良さを、どうすれば魅力として多くの方に伝えられるか考える難しさもあり、それが同時にやりがいだと思っています。

Q 印象に残ったエピソードを教えてください。

採用間もない頃の出来事ですが、担当として携わっていた教育関係の調査物が評価され、訪問調査を受けたことがありました。教職員で連携しながら大学の活動をしっかり外に出すことで、一職員であっても大学の PR に携わることができることを知った経験として印象に残っています。

また、広報ではない部署にいた頃に、大学の「入学案内」リニューアルのための WG に参加させてもらったことがあります。色々な立場の教職員と部署の垣根を超えて意見を出し合うことができたのは、規模の大きすぎない宇大ならではの活動であり、印象的でした。

Q 宇都宮大学の魅力を教えてください。

中規模大学である宇大では、多くの教職員と知り合うことができ、安心感をもって仕事をすることができます。また、キャンパス内の自然が美しく、構内で語り合ったり実習をしたりする学生の姿を見ると心豊かになります。

何より、大学の活動は多岐に渡り、自分自身も日々新しいことと出会いながら仕事ができることは、とても恵まれていると感じます。

Q 宇都宮大学を目指す方へメッセージをお願いします！

大学職員の仕事は、学生や教員の活動を支え、地域や社会を元気にすることのできる、とてもやりがいのある仕事です。最初の頃は形の決まった仕事が多いという印象を持つかもしれませんが、だんだん意見を表明したり、裁量をもって仕事をしたりする場面も増えてくるでしょう。宇大にはそれを支える環境があります。

自分が仕事をする上で何を大切にしたいかよく考え、希望する就職先を探してみてください。その選択肢の一つに宇大があれば、嬉しく思います。



Q 現在の仕事内容・やりがいを教えてください。

私は、人事担当として学内人事異動の調整や職員の職務上の相談対応などの業務に就いています。業務を進める中で全員がウィンウィンになれば一番良いのですが、組織が「人」である以上、必ずしもウィンウィンになれるとは限りません。しかしながら、誰かが「調整」し、「繋ぐ」ことをしなければ組織は崩壊してしまいます。

決して華やかな業務ではありませんが、宇都宮大学の力を最大限に発揮できる「人」の「結」を担えることは、やりがいであり、自分が宇都宮大学の職員である証だと思えるのです。

Q 印象に残ったエピソードを教えてください。

学生対応の部署に配置されていた際、ある学生が家庭の事情で退学を希望し、親御さんから相談を受けたことがありました。色々対応している中で人事異動となってしまいましたが、異動して数週間後、退学を思いとどまったその学生が私に御礼を言いに来てくれました。それまで大変なことがたくさんありましたが、たった一人の「ありがとう」があったなら、これまでの全てが報われるのだと感じました。この経験は、どの部署においても私の信念となり、支えとなっています。

Q 宇都宮大学の魅力を教えてください。

宇都宮大学は各キャンパスが近く、小規模大学であるが故に教員、職員、学生の距離が近いところが特長です。大学というものは、教員・職員・学生が協働（教職学協働）しなければ動くことができません。そして動かすために一番重要なことは、分かち合える「仲間」がどれだけいるかどうかだと思います。動き出すための無限の力を秘めている、それが宇都宮大学の魅力です。

Q 宇都宮大学を目指す方へメッセージをお願いします！

コロナ禍でもそうですが、自身や周りの進化・変化に対応できなければ、自分の道を切り拓くことはできません。現在の宇都宮大学では、学生や地域、企業等のニーズに応え、これまで紡がれた学術を更なる未来へ紡ぐため、様々な事業に取り組んでいく必要があります。

ぜひ、共に宇都宮大学を進化・変化させ、今までにない大学を創っていきましょう！

そして、老若男女が出会い、学び、そしてそれぞれが目指すべき道を照らす「灯台」である宇都宮大学で、「人」が踏み出す未来への船出を共に祝っていきましょう！



先輩職員インタビュー

— 総務課課長補佐 —

先輩職員インタビュー

—財務課係員—

Q 現在の仕事内容・やりがいを教えてください。

大学運営に必要な予算を管理する仕事をしています。具体的には、概算要求や学内予算編成、執行状況の把握、決算整理、財務会計システムの各種登録業務を担当しています。また、文部科学省等からの照会の対応も業務の一つです。

大学運営を支える土台・基盤としての役割にやりがいを感じるとともに、責任の重さに気を引き締めて励んでいます。

Q 印象に残ったエピソードを教えてください。

異動では、従事する業務が大きく変わることがあります。私自身、最初は不安でしたが、課内の人間関係にも恵まれ、初めての業務を無事に終えられたときの達成感はひとしおでした。一見関係がなさそうに思われるこれまでの業務と現在の業務をつなげて捉えることで、より深く理解できるという気づきは私にとって大きなものでした。その積み重ねを大切に、日々、自身の業務と向き合っています。

Q 宇都宮大学の魅力を教えてください。

宇都宮大学には、中規模大学ゆえに、教職員同士、顔がわかる関係をより早く構築できる、という長所があります。加えて、宇都宮大学ならではの特徴として、フランス式庭園や、登録有形文化財（建造物）に登録されている峰ヶ丘講堂など、歴史的価値の保存のみならず、四季折々の風景に癒やされる空間が維持されています。また、都心からのアクセスの良さも魅力の一つです。

Q 宇都宮大学を目指す方へメッセージをお願いします！

ひとえに国立大学といっても、学部・研究科や特色・特徴が異なるように、大学が抱える事情も様々です。特にコロナ禍においては、これまでに経験したことのない日々を今後の糧にできるよう、執行部・教職員一体となって日々奮闘しています。

学生として過ごす大学とは一味違う、職員という立場で、宇都宮大学とともに歩んでみませんか？





先輩職員インタビュー

—学生支援課主任—

Q 現在の仕事内容・やりがいを教えてください。

課外活動系では、主に課外活動（サークル活動）と学生寮に関する業務を行っています。

前者では課外活動団体（サークル）の認定や体育施設の予約・修繕、後者では入退寮の手続きや学生寮の整備に関連する業務のため、教職員はもとより学生とやり取りをすることが多い部署です。困っていることに対して相談に乗ったり、不満や要求を聞いたりして柔軟に対応することが求められます。しかしそれは大学の決まりの範囲の中で行う必要があります。時には心を鬼にして厳しいことを言わなければならない場面もありますが、宇都宮大学の名に恥じない人間になってもらいたい気持ちで業務に臨んでいます。寄り添う姿勢が学生に伝わると、我々職員が困ったときには学生が助けてくれることもあり、学生との信頼関係が感じられる場面は心が温かくなります。

Q 印象に残ったエピソードを教えてください。

私は人と話したりすることが得意な方ではないので、最初この係への配属が決まった時は、自分に学生窓口が務まるだろうかと不安でした。特に配属1年目、大学祭の準備を学生が進めていく中で次々と相談を持ち掛けられる際、すぐに答えを出してあげられないことが多々ありました。しかし時間を掛けながらも、ひとつひとつ学生と壁を乗り越えながら何とか本番にこぎ着け、大学祭のフィナーレを飾る花火を真下から見上げた時は感無量でした。後日、大学祭を企画した学生たちが窓口に来て、「お世話になりました！ありがとうございました！」と言ってくれた時は、全ての疲れが吹き飛びました。

Q 宇都宮大学の魅力を教えてください。

宇都宮大学は、四季折々の緑に恵まれたキャンパスにイキイキとした約5000名の学生が学生生活を送っています。事務室を出れば、そこはなかなか他

の職場では味わえない景色が広がっており、他部署に書類を持っていくだけでも良い気分転換になります。

また、若手職員が独自に企画・発案できる機会も設けられている点も魅力です。例えば、宇都宮大学オリジナルキャラクター「宇～太」や「宇大トリビア」（詳しくは検索してね！）はこの若手職員SD（Staff Development）活動から生まれました。次はあなたが宇都宮大学の新たな魅力を見つけ、ぜひ世界に発信してください。

Q 宇都宮大学を目指す方へメッセージをお願いします！

実は、大学時代は理系（工学部）でした。宇都宮大学では文系理系関係なく、事務職員が活躍しています。楽しいことだけでなく大変なこともあります。共に悩み、共に協力し、共に成長しながら一緒に仕事ができる日を待っています！



滑空部のグライダーに試乗

先輩職員インタビュー

—峰キャンパス事務部主任—

Q 現在の仕事内容・やりがいを教えてください。

峰キャンパス事務部総務係で、峰キャンパスにある3学部(国際学部, 共同教育学部, 農学部)の会計・施設等関係業務を担当しています。会計では予算の執行管理など、施設関係では安全衛生や設備の維持管理・更新に関わる業務を行い、日々教員から多くの相談を受けています。その他にも、キャンパス事務部には総務関係、学務・教務関係、広報関係など幅広い業務があり、教員にとって身近な学部事務室として機能しています。

「教職員相互の距離の近さ」は本学ではよく魅力に挙げられます。なかでも、教員と協業することの多いキャンパス事務部はこのことを実感できる場所です。まさに教育研究の「小さいことから大きなことまで」関わる事ができる場であり、教育研究を本当の意味で「形にしてゆく」ことにやりがいを感じています。

Q 印象に残ったエピソードを教えてください。

農学部総務係配属時、海外出張に随行したことが思い出深いです。

2019年にアメリカの協定校であるパデュー大学に、連携協定の更新に先生方とともに伺いました。研究施設の規模も全く違うアメリカの大学やその文化に触れることができたのは、自身の大学職員としてのあり方を考えるにあたり非常に鮮烈な体験でした。

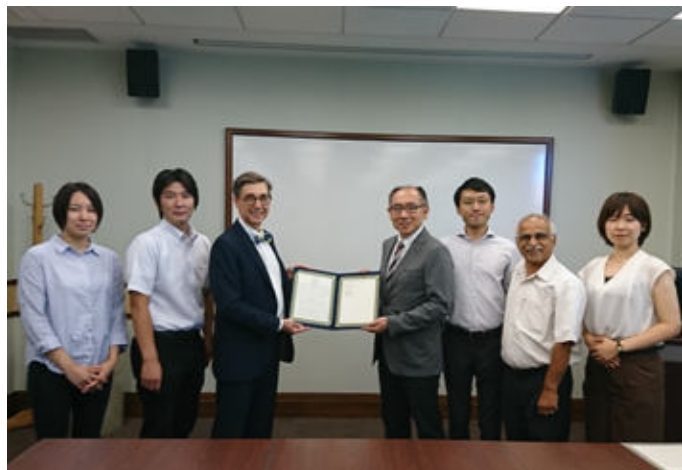
Q 宇都宮大学の魅力を教えてください。

先述した「教職員相互の距離の近さ」が挙げられます。私自身も、ときどき写真が趣味の先生と一緒に、お昼休みには緑あふれるキャンパスの情景を被写体にしてスナップして回ったりしています。とくにキャンパス事務部のような教員と接することの多

い部署だと、「職員 / 教員」の垣根を超え自然と互いを知る機会も多くなり、共通の趣味の話題になることもしばしば。もちろんときに厳しく意見をいただくこともあり決して馴れ合いではありません。忌避のない意見を交換できる「人と人」としての信頼関係があるからこそ、よりよく働けると常々考えています。

Q 宇都宮大学を目指す方へメッセージをお願いします！

国立大学職員の業務のイメージを、「決まりきった型の中での仕事」であったり「変化に乏しい仕事」「黙々と行う事務仕事」としていくぶん堅くイメージする人もいるのではと思います。しかしながら、宇都宮大学には多くのフィールドがあり実際には多くのコミュニケーションの力や対話力、交渉力、想像力といったむしろ柔軟な思考や闊達さが求められる場であると日々実感しています。職員にも、それぞれの得意分野を生かしている人や民間企業出身者など多様なバックグラウンドがあります。皆様の応募をお待ちしています。





先輩職員インタビュー

—峰キャンパス事務部（特別支援学校）主任—

Q 現在の仕事内容・やりがいを教えてください。

共同教育学部附属特別支援学校で学校の運営に関わる仕事を担当しています。

非常勤講師の任用や教職員の勤怠管理といった人事系から、物品の発注や施設管理といった財務系、さらには入試選抜や各種証明書等の発行といった学務系など、小規模ながら多岐に渡る業務を担当しています。

通常、人事系なら人事、財務系なら財務といった1つの部門の業務を行うのが多いですが、ここでは、そういった枠に囚われない様々な部門の業務を行うため、幅広いスキルを学ぶことができ、とてもやりがいがある仕事です。

Q 印象に残ったエピソードを教えてください。

小学生から高校生までの児童生徒との距離が近く、「おはよう」や「また明日ね」といった挨拶をすると元気に返してくれます。そういったやりとりを繰り返していると、名前と一緒に挨拶をしてくれるようになりました。

また、子ども達向けにわかりやすく掲示板を作成すると、「すごい」と喜んでくれます。卒業式には、高等部を卒業する生徒から、「色々ありがとうございました」と言われたときには、親御さんの涙を見ていたこともあり、思わずもらい泣きをしてしまいました。

学校の先生方との交流もあり、大学のレクリエーションとして開催された卓球大会に同じチームとして参加し、みごと準優勝を勝ち取りました。

このときは、放課後の短い時間を有効に使い先生方といい汗を流しました。

Q 宇都宮大学の魅力を教えてください。

仕事を進めていく上で色々不安があったときに、当時の係長が「困ったことがあったら一緒に悩んで考えていこうね!」とさりげなく声を掛けていただいたことが、今でも心に残っています。自分も悩んでいる同僚や後輩がいたときに、こういった声掛けができるよう心掛けています。

小規模な大学だからこそ、人同士の繋がりや絆を大切にする職員に出会える、そんなところが宇大の魅力だと思います。

Q 宇都宮大学を目指す方へメッセージをお願いします!

どのような仕事でも言えることですが、つらいことや大変なことはあります。ただ、それ以上に達成感ややりがいを味わえる職場です。そして仕事も生活も充実できる職場、それが宇都宮大学です!

「大学」で働くことに少しでも興味があれば、ぜひ宇都宮大学と一緒に働きましょう!お待ちしております!



先輩職員インタビュー

—外部機関出向経験者編—

一般社団法人国立大学協会への出向を経験した先輩社員にお話を伺いました。

Q 現在の仕事内容を教えてください。

外国人留学生に係る案件を主に担当しています。中でもメインとなるのは交換留学生の受入れで、年に2回、海外協定校へ募集通知を発出することから始まり、申請書類の受理、各学部・研究科への受入れ依頼、入学許可書の発行、在留資格認定証明書の交付申請など、留学生が渡日するまでの一連の業務を行います。もちろん、実際に渡日した後の留学生生活のサポートも大切な仕事です。その他の業務としては、私費留学生を対象とした各種奨学金やチューターに関する諸手続きなどがあります。

また、今後は、大学の世界展開力強化事業やTHEインパクトランキングに係る業務にも携わる予定です。

Q 出向を希望した理由を教えてください。

他機関への出向は、自分の視野を広げる良い機会だと思ったからです。

私が国立大学協会（以下、国大協）への出向を打診されたのは、良くも悪くも宇大にすっかり慣れ、ともすれば「宇大の中でどのように仕事をこなしていけばよいか」という点に目が向きがちになっていた頃でした。それでも頭の中に「大学が直面している、より大きな課題を意識して仕事をしなければまずい」という意識はありましたので、国大協で、日本の高等教育の現状と日々向き合いながら仕事をするのは、自分にとって大きなプラスになると考え、出向を決意しました。

Q 出向した感想を教えてください。

国大協では、全国立大学に関わる幅広い業務を、スピード感をもって、しかも少人数で捌いていくことが求められます。業務の性質も進め方も大学とは大きく異なる上に、個々の職員が担う責任も大きく、プレッシャーもありましたが、国立大学全体としての方向性の検討・決定のプロセスに関わることで

きた2年間は、とても貴重な経験となりました。一国立大学の職員の立場では経験できないことも多く、期待以上に多くを学ばせていただいたので、思い切って出向したのは正解だったと感じています。また、国大協事務局の職員の大半は、日本全国の国立大学からの出向者です。私より若いけれど優秀な同僚や、経験豊富な上司と過ごす中で、大学職員としてどうありたいか、自分を見つめ直すきっかけをもらったことも、出向で得られた大切な気づきでした。

Q 今後のキャリアプランを教えてください。

様々な変化に適切に対処できる職員になりたいと考えています。世界的に見ても、大学を取り巻く環境は大きく変わりつつあり、従来やり方では対処しきれない課題が今後さらに増えていくと思われます。国大協で身に付けたスキル、特に国内外の高等教育に関する最新動向の情報収集方法と、自大学の慣例や常識に縛られ過ぎないという意識を今後も忘れずに、大学職員として知っておくべき情報をリアルタイムでキャッチし、様々な課題に対してどのように対応していくのがベストなのかを考え、行動に移していける人材を目指しています。



ZOOMにてミーティング中

先輩職員インタビュー

—自己啓発研修受講者編—

宇都宮大学未来塾を受講された先輩職員にお話を伺いました。

Q 未来塾を受講したきっかけを教えてください。

宇都宮大学に就職してから3年半が経ち、良くも悪くも大学事務の職務に慣れてきた頃に未来塾研修のお知らせを目にしました。

ほとんどの業種で同じことが言えると思いますが、業務に慣れると職務遂行能力が上がる半面、思考回路が偏り柔軟な発想をしづらくなってしまいます。

そこで、普段とは違う視点から物事のとらえ方を学び、また普段の業務では触れ合えないような他業種の講師の方々・受講生の方々と交流することで凝り固まってきた頭を柔らかくしたいと思い、未来塾研修に応募しました。

Q 未来塾を通して学んだこと、受講してよかったところを教えてください。

先述のとおり広範な視野をまなぶことができたことや、アグレッシブな講師・受講生の方々と交流しモチベーションを高められたことは非常に有意義であったと感じています。

また、単純に講義が面白かったです。講義の内容はこちらの好奇心を刺激するような内容が多く、ところどころで豆知識コーナーやブレイクタイムが挟まり、飽きることがありませんでした。やはり実業家の先生方のパワーポイントの使い方が非常に上手で、そんなところも参考になりました。

そんな講義を受け、久々に学生時代を思い出しました。サービス・案内・講義を「提供する側」として忘れがちな「受ける側」の気持ちを思い出すことができたのは意外と大きな収穫であったと思います。今後、学生さんたちと接するに当たりこの気持ちは忘れないようにしたいです。

Q 宇都宮大学の研修の魅力を教えてください。

研修の中身もさることながら、研修を受けている受講生の方々と交流する機会を大切にしてくれています。研修の内外で受講生同士のコミュニケーションをとることも重視され、インフォーマルな関係を築くきっかけを提供してくれるため、研修で培った知識以外の面でも仕事がしやすくなります。

研修の実施頻度も、繁忙期の実施は避け、数日間で集中的に実施したり、週一で受講者に無理のない時間での開講としたり、業務への負担感が少なくなる程度になるよう考えられています。



宇都宮大学未来塾とは？

宇都宮大学による次の時代を切り開くための人材育成塾です。詳しくは「宇都宮大学未来塾」で検索！





若手職員座談会

入職2～3年目の若手職員に
お話を伺いました。

Q 宇都宮大学に入職した理由を教えてください。

Hさん 学生の頃から人を支える仕事がしたいと考えていました。私自身本学の卒業生で新しくできた学部にも所属しており、大変なことも多い中先生や職員の皆様のおかげでのびのびと4年間学ぶことができました。この経験をいかし、今度は自分が教員や学生を支えたいと思い本学を志望しました。

Iさん 私は本学の卒業生でもなければ栃木県の出身でもありません。前職も県外で働いていましたが、もともとキャリア教育に興味があり、大学職員という仕事には漠然と興味を持っていました。そんな中、本学の独自採用試験の存在を知りチャレンジすることにしました。参加した説明会で職員の話聞き、本学のような小さい組織で働くやりがいと裁量の大きさに魅力を感じたことを覚えています。前職がいわゆる大企業だったということもあり、より小さい組織に惹かれたのかもしれないですね。

Sさん 私も中途採用で、前職では地元で営業をしていました。営業時代にも地元で貢献している実感はありましたが、より地域を盛り上げられる仕事・将来に繋げられる仕事がしたいという思いがあり本学の独自採用試験を受験しました。また、私自身大学時代とても楽しかったですし、自身の経験をいかして学生さんのサポートができればという思いもありました。
宇都宮大学が引っ張っていくことで地元をもっと盛り上げられるのではないかと考えています。

Q 現在の仕事内容を教えてください。

Sさん 現在は修学支援課に所属しており農学部の担当をしています。時間割や授業教室の調整、卒業予定者が必要単位数がとれているかのチェックや退学休学等の手続き等、学部の教務関係処

理を担っています。自分が間違えたら学部全体に影響を及ぼしてしまう責任感のある仕事ではありますが、他学部の教務担当の職員や周りの先輩方にサポート頂きながら仕事をしています。

Iさん 採用されてから異動はありましたか？

Sさん 今は2つ目の部署で、以前は財務関係の部署でした。仕事内容も全く違いますし、新しい仕事を覚えるのは大変でしたが、多くの業務に関われることは大学職員の大きな魅力かもしれませんね。

Hさん 私もそう思います。学生時代、大学職員といえば学生対応というイメージがあったのですが、実はいろいろな仕事があることを知り驚きました。学生からは見えない部分も多いですが業務の幅は広いと思います。いろいろな仕事に関わる機会があるのは本当にわくわくします。

私は財務部に所属しており、経理関係の書類のチェックやシステムの運用、他部局からの調査ものの対応等を行っています。約1年今の業務に携わっておりますが、わかったつもりでいても新しい発見が今でもあったりして日々学ぶことが多いです。

Iさん 私は戦略企画室に所属しており、大学全体の目標・計画のとりまとめや、大学の方向性を決めるために必要なデータ分析などの業務に携わっています。国立大学法人は毎年、大学としてこんなことをやっている、という報告書を文部科学省に提出するのですが、その際に必要なデータは各部局から提供してもらうこととなります。そのため、いろいろな部署の方から話を聞く機会があり、幅広く大学の動きを知ることができていると思っています。採用前はこのような仕事があることを知りませんでした。今となっては大変ありがたい経験ができているなと思っています。

Hさん 最初戦略企画室と聞いて、どんな仕事をしているのか全然わからなかったのですが、宇都宮大学としての評価を左右している本当に重要な部署ですよね。

Sさん そう思います。戦略企画室以外にもぱっとイメージできる大学職員の仕事は案外少ないのかもしれないですね、2割位な気がします。

見える部署ももちろんですが、その見えない仕事が大学を支えていたりしますよね。どの仕事も大学を支える上で重要な仕事だと思います。



Q 宇大の職員として働く魅力を教えてください。

Iさん 入社理由としても述べましたが、コンパクトな大学であるというのは今でも魅力だと感じています。学生と関わる部署であれば、学生と近い距離で、お互いの名前や顔を覚えながら仕事ができると思いますし。今は学生と関わることはなかなかないですが、教職員同士の距離の近さはとても感じます。わからない事があれば他の部署であっても気軽に聞きに行けるのは魅力ですね。

Sさん アットホームな雰囲気と、説明会等では言われていたのですが、入社するまで実際どうなんだろうと思ってた部分があって、でも本当にアットホームな雰囲気と本学の魅力だと思います。また前職では、会社の方針に従い業務を行っていくことがほとんどだったのですが、本学にはなにか変えたい、これはやめたほうが良いという声を吸い上げてくれる雰囲気があるように思います。上司に自分の意見を伝えやすい環境も本学の魅力だと思います。

Iさん そうですね、上司だけでなく役員の方と意見を交わすことができる環境も魅力的ですよね。これは大きい企業や大学だとなかなか難しいことだと思います。若手のうちから役員の方の考えをお伺いすることで考え方の視野も広がるように思います。

Hさん 私は新卒で本学に採用されたので他の会社と比較はできないのですが、職員間のコミュニケー

ションは取りやすいと思います。質問もしやすいです。先輩方はいろいろな部署を経験されているので、自分の業務以外のこともたくさん教えてくださいます。自分の部署に限らずいろいろな事が学べるので、他の視点から自分の業務内容について考えることができるようになりました。あと、思っていたよりも休みが取りやすいです。社会人になったらなかなか休めないと思っていましたが、ワークライフバランスのとりにやすい環境だと思います。

Iさん 確かに、自分の時間は増えました。ワークライフバランスはとても良いと思います。自分のスキルを高める時間に使ったり、趣味の時間に使ったりしています。自炊をはじめて毎日お弁当を作ったりと、楽しいです。

Sさん 私も自分の時間は増えました。あと、時短勤務をしている方もたくさんいると思うのですが、結構いろいろなとり方ができて育児環境に応じて柔軟な働き方ができると思いました。前職では時短勤務イコールこの時間、というような認識があったので、続けやすい環境ですよね。

Q 入社して大変だったことを教えてください。

Hさん 新しい会計関係のシステムを取り扱うことになり、質問等の問い合わせに対応するのは苦労しました。今まで経験してきた業務は前任の方がやっていた業務を引き継ぐ事が多くノウハウを分かる人もいたのですが、そのノウハウがない中で自分でもシステムを覚えながら一つ一つ対応していきました。厳しいお言葉を頂くことも多くへこむこともありましたが、この経験は大きな自信になりましたね。

Iさん 私も新しいシステムの導入時は大変でした。新規に導入した評価系システムの担当になったのですが、システムの修正等、業者とスムーズにやりとりするためにプログラミング言語を勉強しながら導入を進めたことを覚えています。当時は大変でしたが、その時に学んだ知識は今でも業務に役立っているので挑戦してよかったです。



Sさん 私も H さん同様に前例がない対応が大変だったと思います。コロナ禍の影響もあり、去年と同様の対応が出来ない事が多くありました。誰も正解が分からない中で業務を進めていく事は大変でしたし不安もありましたが、前任の方や先輩方からのアドバイスを受けながら業務に取り組みました。臨機応変に状況に応じて対応していく力が今後の大学職員には求められていくと思います。

Iさん 確かに臨機応変な対応は求められていくと思います。事務職員ってどうしても与えられた業務をこなす事がメインになってしまうと思うのですが、変えるべきと思ったらどんだん声を上げるべきだと思います。どの業界でも職場ごとの文化があると思うのですが、その文化に染まりすぎず常に疑問を持ちながら働きたいですね。

Q 最後に、皆さんの目標を教えてください。

Iさん これまでの業務では“学生目線”を意識することが少なかったのが、学生と直接関わる仕事に次は挑戦したいと思っています。また統計などに興味があるので、自分の強みをさらに伸ばして、業務に活かしていけるようにしたいです。

Sさん 強みにするってとても大変ですよ。得意かかって思う事はあっても武器にする事は難しいと思いますが、武器が出来れば任せてもらえる仕事も増えると思うので努力していきたいです。また、私は宇都宮大学が成長し続けられるような1つのピースでもいいので、なにか力になれる存在になりたいです。



Hさん 私は自分の武器や強みが何かまだわからなくて、それを見つけることから始めていきたいと思っています。これやってみない？と上司が言ってくださったことを前向きにチャレンジして、いろいろな部署を経験しながら私＝これが強みだというものを見つけていきたいです。

座談会を終えてー採用担当者よりー

宇都宮大学の魅力、大変だった事等率直な意見を頂くことができました。宇都宮大学には積極的にチャレンジ出来る環境や、気軽に相談出来るアットホームさがあり、非常に働きやすい職場であるなど改めて感じました。本学の雰囲気や仕事のやり甲斐、大学職員として働くとはどういうものなのか等、少しでもイメージしていただけたら幸いです。

是非宇都宮大学の一員として、一緒に大学を盛り上げていきましょう！



Profile (写真左から)

Sさん
所属：学務部修学支援課 係員
入職：平成30年10月

Hさん
所属：財務部財務課 係員
入職：令和2年4月

Iさん
所属：戦略企画室 係員
入職：令和2年1月

